

令和7年度 第1回高山市環境審議会 議事要旨

日 時 令和7年8月7日（木）午後1時30分～午後3時30分

会 場 高山市役所 地下 大会議室

出席	梅野 明秀	荘川町まちづくり協議会・六厩町内会	
	鴻巣 明久	高山市農業委員会	
	中田 広之	高山市森づくり委員会	
	中田 和子	高山商工会議所女性会	
	大村 貴之	高山市快適環境づくり市民会議	
	竹内 由美子	NPO 法人まちづくりスポット	
	栗原 真	中部電力パワーグリッド株式会社高山支社	
	脇本 裕司	濃飛乗合自動車株式会社	
	保木口 良成	岐阜県飛騨県事務所	
	松井 健治	高山市教育研究所・高山市立花里小学校	
	鈴村 仁孝	ネイチャーサポートシステム	
	井上 博成	飛騨高山小水力発電株式会社	計12名

事務局	副市長	清水 雅博
	森林・環境政策部長	山腰 勝也
	環境政策課長	下野 泰功
	ごみ処理場建設推進課長	直井 哲治
	環境政策課環境政策係長	小野 貴史
	ごみ処理場建設推進課生活環境係長	北野 千恵
	ごみ処理場建設推進課ごみ処理場建設推進係長	堤 一雄
	森林政策課林業振興係長	中澤 宏介
	環境政策課環境政策係	田中 知博

次 第

1. 開 会
2. 副市長あいさつ
3. 委嘱状交付
4. 会長および副会長の選任
5. 議 事

(1) 令和7年度の主な環境施策について	資料1
(2) 高山市環境基本計画について	資料2
(3) 高山市森林整備計画について	資料3
(4) 脱炭素先行地域づくり事業について	資料4
(5) 高山市ごみ処理施設建設工事の進捗状況について	資料5
(6) 高山市議会からの政策提言について	資料6
6. その他
7. 閉 会

1. 開会

2. 副市長あいさつ

3. 委嘱状交付

4. 会長及び副会長の選任

会長は大村貴之氏、副会長は中田広之氏を選任

5. 議事

(1) 令和7年度の主な環境施策について

事務局（下野課長）より説明

意見なし

(2) 高山市環境基本計画について

事務局（小野係長）より説明

意見なし

(3) 高山市森林整備計画について

事務局（中澤係長）より説明

(鴻巣委員)

農業委員会では、山の地籍調査をずっとお願いしている。正直なところ、私も自分の山があの辺にあるくらいしかわからない。生産森林組合などの組織があるところは場所も境界もしっかりわかる。個人は、どこに自分の山があるのかわからない状態で進めていくのか、ある地域だけを限定して行うのかを聞かせていただきたい。

(中澤係長)

個人の山がどこにあって、どうやって管理していくのかを所有者の方に認識していただきたいと思っている。そのために、森林推定地番図の作成を目指している。地籍調査では長い期間がかかってしまうため、航空写真を使ったり、昔の写真と今の写真を比べたり、地形がより細かくわかるレーザー測量を使ったりして、森林推定地番図の作成を進めていく。所有者の方が山へ行ったことがなくても、地図上でだいたいこの辺りとわかるようにしていきたい。

(竹内委員)

持ち主が高山市にいないことが多いのではないかと。東京にいる方で、山をそのまま譲りたいという方がいる。個人の山を特定するのは難しい。わかるところから進めていくという理解でよいのか。

(中澤係長)

今言われたとおり、市外の方もいる。自分の山がどこにあるのかわからない方もいる。我々の持っている情報では、スギやヒノキが植えてあれば大体わかるが、そうでなければわからないことが多い。森林推定地番図を作り、確認しながら進めていきたい。

(竹内委員)

ぜひ、明らかにしていただきたい。

(鈴木委員)

100 年先を見据えた森づくりとして、伐って使って植えて育てる、循環型の取り組みがあるが、伐ってしまうと森に再生できないような急傾斜や、笹に覆われて更新しづらい、植えても雪が多い、土壌が悪く育たないといった場所がある。山崩れを防ぐといった観点で、手を付けない森づくりもあると思う。すべての森が伐って植えてということではないと感じている。このようなところは道もなく大変なので、山へ行くための道、整備するための道が必要だと思う。このようなことも踏まえて、100 年先を見据えた高山の豊かな森を作っていただきたい。

(中澤係長)

急傾斜など、木を伐って出すには採算が取れないところがある。儲かる林業の場所とそうでないところを明確にして、難しいところは少しずつ間伐をして天然に戻すなど、県とも相談しながら進めたい。災害に強く、採算も取れる森づくりを進めていきたい。

(大村会長)

森林整備計画は今年度から 10 年間かけてということであり、また皆さんのご意見を聞ける場が出てくると思う。ぜひ、市民と一緒に、前に進めていただく計画にしていきたい。

(4) 脱炭素先行地域づくり事業について

事務局（下野課長）より説明

(井上委員)

少し補足させていただく。

資料にあるとおり県内で初めて脱炭素先行地域に選定されたが、最初第 3 回募集時に申請したが落選し、そのあと環境省からご指導いただいてブラッシュアップした結果、第 4 回で採択いただいた。非常に採択難易度が高い事業で、県内では今、高山市だけが採択をいただいている状況で、県内様々な自治体が応募されたと聞いているが、なかなか一筋縄では採択されない厳しいものだとして理解している。私が認識している範囲で、この取り組みのどこが先進的として評価されたのかを補足させていただきたい。

高山市の最大の特徴は、水力発電所の認定件数が全国 1 位であること。1 位ではあるが、件数ではたった 20 件。実は、高山市内には太陽光発電は 1,000 件以上あるが、自治体順位でいくと 500 位くらい。小水力発電所は 20 件しかなくても全国 1 位であり、この状況からさらにもう 10 か所増やす計画としている。

脱炭素先行地域とあるように、いきなりすべてを脱炭素化するのは難しい。一旦まず 2030 年までに、高山市域の一部で再生可能エネルギーに切り替える、先行的に取り組むということで評価をいただいたと理解している。

小水力発電所を整備するためには様々な調整先がある。地域の町内会の皆様をはじめ、地権者の皆様、漁業組合の皆様など、非常に多くの方と手を取り合いながら進める。1 人でも難しいと言え事業が難しくなるという難易度の高い事業である。その辺を高山市様と一緒に一歩ずつ進めさせていただいている。2030 年までに、事業をきちっとやり切ることを目標に進めているが、着工に向けて進んでいるところもあれば、魚が住んでいるところでは厳しいのではないかとのご指摘をいただいているところもある。もしできなかった場合は、違う候補地に入れ替え、整理をしながら、事業を進めている状況である。

中部電力パワーグリッド様の見える化サービスは、ホームページで郵便番号を入れていただくと、自分の地域がどれくらい脱炭素化されているか見ることができる。

普及啓発として、昨年は発電所を見学するツアーを開催したが、今年はシンポジウムなど、高山市に住む皆様が自分たちの電気をどう使えるのか、関心を持ってもらえるようなことをしていきたい。

まだ始まって２年度目の事業ではあるが、目標の達成に向けて、一步ずつ進めている状況である。

(栞原委員)

市全域ゼロカーボンの実現を目指しているが、実際にはまだスタートに立ったところだと思う。実現に向けて皆さんの意識を変えていくため、中部電力パワーグリッドは見える化サービスを提供している。実現にはまだまだいろいろな課題があると思うが、足元からまずやっていくことが大事だと考えている。

(大村会長)

全国的にも、これだけの規模の水力発電所がない中で、高山市が注目される事業の一つではないかと思っている。設置される地域の方だけでなく、市民みんながこの事業を知る取り組みをされているということなので、ぜひ引き続き、市からも市民に対するPRを進めていただきたいと思います。

(竹内委員)

環境とはちょっと違うが、住民参加のまちづくりにぴったりな事業だと思う。住民参加のまちづくりは、大学生や国際協力の勉強をしている人たちには、ものすごく関心が高いので、もう少しPRしてほしい。見学できる場所もまだ少ないということなので、今後、住民参加のまちづくりのモデルケースの一つとして、これを広くPRできるのではないかと思う。環境とはちょっと別の観点から、私は期待している。少し目線を変えて、PRをお願いしたい。

(下野課長)

この脱炭素の取り組みについては、地域の方、市民の方に知っていただくことが必要だと考えている。今言われたように、地域づくり、人づくり、いろいろな部分で寄与していくような取り組みにしたいと思っている。そういった点を意識しながら、取り組みを続けていきたい。

(５) 高山市ごみ処理施設建設工事の進捗状況について

事務局(直井課長)より説明

(中田和子委員)

ごみはどの家庭や会社でも出るため関心が高い。新しいごみ処理場ができることはありがたい。市民や会社の人たちも、新しいごみ処理場がどんなところか見たいと思う。どのように処理されるのかを、市民が見学できるように考えていただければと思う。

また、さるぼぼやブレスなどの広報誌を主婦はよく見ているので、これらを活用するとよいと思う。

(直井課長)

この施設を作るにあたり、ごみ処理のほかに、環境教育という意味合いも持たせている。市民の皆様に来ていただいて、ガラス越しにはなるが、ごみ処理の様子などを見ていただくことができる。完成した際には、ぜひご覧いただきたい。また、ごみの分別などについて、周知に

努めていきたい。

(大村会長)

4月以降は市民の方はフリーで見学できるのか。

(直井課長)

4月以降は見学スペースでフリーでご覧いただくことができる。

(大村会長)

それより前に希望者の施設見学や、見学日を決めて開催するなどの予定はあるか。

(直井課長)

見学のスケジュールは決まっていないが、竣工した時点で、内覧会みたいなものは行いたいと考えている。

(大村会長)

皆さんに見ていただくことによって、ごみの啓発にもつながると思う。

(松井委員)

ごみ処理に伴う熱の利用や発電について、もう少し教えていただきたい。

(直井課長)

現在の施設では、近くの老人福祉施設に蒸気を供給しており、引き続き供給する。また、新たに場内の融雪、ロードヒーティングを行うようにしている。また、発電設備、タービンを設け、そこで発生した電力を場内の電力に利用していく。余剰となった電気については売電していくことも考えており、効率的に動かしていきたいと考えている。

(下野課長)

ごみ処理施設については、実際の稼働は来年度からであるが、今年度中に試運転が行われる。事業者との調整もあるが、環境審議会の皆様方に、事前に中の様子を確認していただく機会を設けることができたらと思っている。

(6) 高山市議会からの政策提言について

事務局（下野課長）より説明

意見なし

6. その他

7. 閉 会